

一般財団法人柳澤君江文化財団
平成22年度・第1回企画

書の周辺を学ぶ
かみす
紙漉き体験 I N 小川町

報告書



和紙染めで作った作品

今回は財団の第1回企画として、「書の周辺を学ぶ」というテーマのもと、全国でも有数の和紙産地である埼玉県小川町で紙漉き体験・和紙染め体験を行いました。

今年1月に参加した「かしき・むき」という作業過程から合わせてご報告します。

開催日時：平成22年9月19日（日） 午前10時00分～

場 所：埼玉県小川町和紙体験学習センター

住所 埼玉県比企郡小川町大字小川226

電話 0493-72-7262

講 師：小熊廣美（書道家）

参加人数：大人13名 小人6名（計19名）

1, 原料



小川和紙の原料は楮（コウゾ）です。楮はクワ科の落葉低木で、成木は3メートルあまりになります。樹皮の繊維は太くて長く強靱なので、障子紙、表具洋紙、美術紙、奉書紙などの原料として多く使用されています。また、栽培が容易で収量が多く、毎年収穫でき、繊維も取り出しやすいため、各地で広く栽培されています。

今回はこの楮から和紙が出来るまでを体験しました。

2, かしき・むき作業（平成22年1月10日）



「かしき」とは、収穫した楮の外皮をむきやすくするために高温の釜で蒸す作業です。楮を70cm前後に切りそろえて束ね、水を張った釜で蒸していきます。

「むき」とは、蒸し上がった楮の黒皮（樹皮）を剥ぐ作業です。楮の黒皮は冷えると剥ぎにくくなるため、保温のためにビニールシートを掛け、一抱えずつ取り出して1本ずつ皮を剥きます。



このように樹皮はつるんと剥けます。剥いた樹皮を天日で乾かして、表面に付いた茶色い部分を除いたものが和紙の原料となります。



むきの出来が和紙の質を決めるとか。
皆さん真剣！！



途中みんなでお昼休憩。

3, 紙漉



さて、いよいよ紙漉きです！楮にトトロアオイという植物の根をつぶして作った粘液を混ぜ、紙漉きのベースを作ります。（ここは素人には難しい作業のためセンターの方が準備して下さいました。）

まずはセンターの方にお手本をみせてもらい、順番に紙を漉いていきます。

木枠に和紙の原料が入ると意外と重く、子ども達は大苦戦！センターの方に助けてもらいながら漉きました。



大人でも初めての作業に緊張し、なかなか思い通りに出来ません。

漉いた紙は専用の鉄板に貼り付けて乾かします。(時間に余裕があるときは天日で乾かすとのこと。)



今回はハガキサイズの紙漉きも体験しました。漉いたら色紙や毛糸などを使い、思い思いに飾り付けします。大人も童心に戻り、夢中になってしまいます。出来上がった作品をみると、それぞれ個性が出てとても彩り豊か！！



ここで、お昼休憩、地元の有機野菜を使ったお弁当を食べるグループ、現代人らしくマクドナルドのハンバーガーを食べる親子など、それぞれの家庭での様子が垣間見えるようです。昼食後は親と子ども達と分かれて、親は懇談会、子ども達は和紙染めの準備をします。



4, 和紙染め



午後は和紙染めをします。

和紙を蛇腹に折りたたんだり、輪ゴムで縛ったりして、出来上がりの想像をしつつ、好きな染料で染めていきます。

ただ、出来上がりは期待していたものとは少し違ったり、思いがけず素敵なものになったりと一喜一憂でした。

出来た作品がこちら。(別添の和紙が作品の一例です。)





5、鑑賞会

最後は全員で作品鑑賞会をしました。それぞれ自慢の作品を掲げて今日の感想を言い合います。恥ずかしがって話せない子どもや、全てが自慢できると言う大人、思ったように出きなかったと言う人など、感想はそれぞれですが、皆「楽しかった！」という意見は一致していました。

普段なかなか出来ない体験が出来、とても新鮮で楽しい一日となりました。

以上

体験者の声

・歴史のありそうな建物の中で、タイムスリップしたような気分を味わうことが出来ました。とても楽しいひとときでした。機会があれば、またぜひぜひ参加したいです。

・普段あまり触れる機会がない和紙ですが、どのような過程で作られるのかも知ることが出来、勉強になりました。

和紙に色つけをした際、同じ原料を使っているのに、出来た作品がそれぞれ個性が出ていたのも、印象的でした。